

令和7年度 第1回西区まちづくり懇話会(要旨)

1 日時 令和7年(2025年)5月22日(木)午後2時30分～

2 場所 西部公民館2階 A 会議室

3 出席者 計31名

・西区まちづくり懇話会委員(8名)

川副会長、安部副会長、岡委員、久保委員、徳永委員、本田委員、西委員、内村委員

・事務局(23名)

西区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、総務企画課職員(3名)、区民課長、西区管内まちづくりセンター所長(3名)、河内交流室長、西区土木センター所長、西区土木センター総務課長、西区土木センター維持課長、西区土木センター河内分室長、西区福祉課長、西区保健こども課長、西税務室長、西南部農業振興センター所長、西南部農業振興課長、基盤整備課長、農業委員会事務局西南分室長

4 内容

(1)令和6年度「西区でやろう！アイデアコンテスト審査会」(西区魅力アップチャレンジプログラム)の報告について

(2)令和7年度(2025年度)まちづくり推進経費について

(3)各まちづくりセンター管内の現状と課題等について

(4)令和7年度西区まちづくり懇話会スケジュール(案)について

5 議事要旨

●議題1 令和6年度「西区でやろう！アイデアコンテスト審査会」(西区魅力アップチャレンジプログラム)の報告について

<資料1について 事務局から説明>

(徳永委員)

アイデアコンテストの告知期間について、2か月間だけでは企画検討と応募は難しいのではないかと感じる。一年を通して告知を出しておかなければ厳しいのでは。

(安部副会長)

窓口対応をする職員の負担が増えるかもしれないが、応募についての相談や計画を練る時間を考えると通年での告知が良いと感じる。より具体的で実行可能性の高い案が出てくるためにも、相談できる期間が長い方が良いと思う。

(岡委員)

自分達に応募資格があるのかが分からないのではと思う。子ども会でも可能なのか小学校単位なのか等、どのくらいの単位で応募できるのか。

(事務局)

応募資格に決まりは特になく、企業、地域団体、NPO 法人等の団体、個人が応募可能。ただ、採択後は実行委員会形式となるため、個人の方であっても組織づくりが必要となる。

(徳永委員)

これまで採択されたものは、3年間事業を実施しているか。

(事務局)

「WESTSIDE 釣り大会」、「手ぶら de キャンプ」は、新型コロナウイルス感染症の影響で2年間のみの実施となった。

(安部副会長)

実施場所が西区であれば、西区以外の団体からの応募も可能か。

(事務局)

これまで採択された事業には、他区の企業が実施したものはある。西区のフィールドで実施し、西区のにぎわいに繋がるものであれば、他区の事業者からも応募可能。

(本田委員)

これまで採択されたイベントでは、事業者の従業員がスタッフとして出るのか、ボランティアを募るのか等はどのようにしているか。イベントのスタッフは大変ではないかと思う。

(事務局)

事業者の従業員総出で対応していただいている状況。

(本田委員)

採択された事業が3年間続かない理由は、そこも関係するのではないか。あくまで想像だが、こんなに大変であればやめようとなりやすいのではないかと感じる。

(川副会長)

企業側に、知名度が上がることや、新しい顧客との接点を持つ等のメリットが大事かと思う。ボランティア要素が強いと長続きしないため、メリットをうまく見せていく必要がある。これまで出た意見をもとに企画の見直し等を検討していただければと思う。

●議題2 令和7年度(2025年度)まちづくり推進経費について

<資料2について 事務局から説明>

(本田委員)

「いのちのふれあい学校事業」について良い試みだと思うが、学校は4月に年間計画を全て立てている。どの学校で、PTA と共に行うのか等、具体的に考えて計画が進んでいる状態か。

(事務局)

昨年度に校区担当保健師から地域の方や学校側に相談はしている。今年度は中学校で1校、高校で1校開催予定。これから事業を広めていくにあたり、今年度は地域の役員や学校への周知を行い、単年度の事業ではなく、少しずつ全校区に広めていきたいと考えている。

(川副会長)

西区フェスタで新しい試みとして、ステージ出演団体の公募や高校生ブースを実施したことについて、良い結果等があれば共有していただきたい。

(事務局)

高校生ブースでは、参加した学生は和気あいあいと取り組んでおり、翌年もやりたいと声を頂いた状況。ステージ出演団体の公募は、雨のため中止となった団体もあったが、西区の魅力発信という点では良かったかと思う。

(川副会長)

西区が野菜を1日2回以上食べる割合が低い原因や理由等の予測はあるか教えてほしい。

(事務局)

原因までは分からないところがある。ただ、昨年「ベジチェック(野菜摂取量を推定する機器)」を約700人に実施し、年代ごとに結果を見ると、10~20代の野菜摂取量が不足していることが多く、年を重ねるごとに足りている割合が増えている状況だった。若い方の食習慣の乱れや欠食が多い状況等もあると思う。どの層をターゲットにしてアプローチするかを今年度考えていきたい。

(久保委員)

野菜を買っても余らせてしまうため、カット野菜をよく買う。農家としてのPRも大事だと感じる。ドレッシングやふりかけ等、野菜に加えるちょっとしたものも大事だと思う。

(西委員)

生産者と消費者が直接会って話すことは少ないが、後継者不足等で余っている農地を消費者が借りて、消費者自身で野菜育てて収穫するというところを行った際、評判が良かった。

(徳永委員)

都会の方では、サラダを中心にしたおしゃれな飲食店が多い。熊本ではまだ少ないが、そういった店が広がると野菜のイメージも上がり、新たな展開があるかと思う。

(岡委員)

10-20代の野菜不足について、子どもが野菜を食べたくても、親が忙しく作る時間がない等もあるかと思う。例えば、西区フェスタの出店や企画として、西区の野菜やそのレシピを紹介すると興味を持ってもらえるのではないかと思う。

(事務局)

農業・ノリ関係の従事者等、作業の合間に片手で食べられるおにぎりとお茶という食事が多いのではと推測している。また、熊本はひき肉の消費量が多いが、例えばハンバーグの中の野菜等、野菜を食べている認識が低いのではと推測している。野菜を食べているという認識をもってもらえるよう啓発をしていきたい。

(安部副会長)

地域コミュニティづくり支援補助金の地域コミュニティモデル事業は3年間継続して補助金が出るが、アイデアコンテストとの違いは何か。

(事務局)

地域コミュニティづくり支援補助金は、地域のコミュニティづくりのための「補助金」であり、自治会や校区自治協議会等、申し込み団体の制約がある。アイデアコンテストは、応募資格に決まりは特になく、「負担金」であるという違いがある。

●議題 3 各まちづくりセンター管内の現状と課題等について

<資料 3 について 事務局から説明>

(徳永委員)

「しらかわ花灯り」の花火について、花火の音が聞こえてからイベントに気付く人が多いと感じるが、告知はどうされているか。

(事務局)

橋の交通整理の問題があり、集客し過ぎると花火が上げられず、警察から待たがかかる状況のため、地域での回覧等、地域への呼びかけを基本として行っている状況。

(内村委員)

「しらかわ花灯り」について、運営で学校への周知やポスター掲示を行っている。参加者は年々増えているが、ボランティアで運営しているため限界があり、厳しい状況。

(本田委員)

まちづくりセンターの取り組みは、まちづくり推進経費のどの項目に該当するか。

(事務局)

西部まちづくりセンターの「しらかわ花灯り」、「スポーツ×マルシェ」、「婚活イベント」は「地域ニーズ対応経費」であり、「西区チャンネル配信事業」は、「西区チャンネル配信事業経費」。河内まちづくりセンターの地域学校連携事業は「地域ニーズ対応経費」、地域おこし協力隊は別の予算、「ローソンと連携した移動販売」は予算無し。花園まちづくりセンターの「大学連携まちづくり事業」は、「大学連携まちづくり」事業経費となっている。

(徳永委員)

西区チャンネル動画配信について、熊本でも YouTube で有名な方がいる。そういう方を取り込んで西区の魅力を発信してもらおうと、予算もかからず視聴数の多い動画が出来るのではないか。

(安部副会長)

学生はほとんど YouTube を見ず、TikTok やインスタ、その他聞いたことのないようなアプリ等をよく見ている。YouTube に市がどれだけ力を入れるかだが、委託や他の配信者とコラボ等、うまく変えていく必要があると感じる。一時的に登録者が増えたとしても、それを継続することが大変。時代に応じてツールがどんどん変わる時代。どこが切り替え時か、どう変換させていくのか等を検討しつつ戦略を練る必要がある。ニーズ、年代やターゲットに合わせて情報発信の仕方やツールを変える、また、多様化させていく方が良いと思う。短い動画を見てもらい、長い動画に誘導する等も良いと思う。

(事務局)

西区チャンネルについて、市として PR した後は登録者が増えており、関心を持ってもらえている。新しい動画の掲載時には、LINE で30代以下の世代に告知している。YouTube は高齢者に見てもらえている状況であり、TikTok は、市としてまだ取り入れられていない状況。

●議題 4 令和 7 年度西区まちづくり懇話会スケジュール(案)について

<資料 4 について 事務局から説明>

(事務局)

今年度もまちづくり懇話会を4回開催予定。今回は、8 月に中高生とともにエリアごとのワークショップを開催予定。詳細や日程等については、また事務局から正式にご案内したい。